

# 2014年3月期 連結決算概況 2015年3月期 通期見通し

2014年5月9日  
オリンパス株式会社  
取締役専務執行役員  
グループ経営統括室長  
竹内 康雄

- 財務担当の竹内です。
- それでは、私から2014年3月期決算実績、ならびに2015年3月期見通しの概況をご説明申し上げます。

## 2014年3月期実績 ①連結業績概況

- ◆医療事業が全社業績を大きく牽引、各利益項目で大幅増益
- ◆金融収支が有利子負債の圧縮等により大きく改善、経常利益は前期比4倍に

(単位：億円)	通期実績					【2014年2月発表】	
	2013/3	2014/3	増減額	前期比	特殊要因調整後(※)	2014/3(前回予想)	差異(増減額)
売上高	7,439	7,133	△306	△4%	+1%	7,200	△67
販管費 (販管費率)	3,431 (46.1%)	3,670 (51.5%)	+239 (+5.4pt)	+7%	-	3,745 (52.0%)	△75
営業利益 (営業利益率)	351 (4.7%)	734 (10.3%)	+384 (+5.6pt)	+109%	+55%	725 (10.1%)	+9
経常利益 (経常利益率)	130 (1.8%)	509 (7.1%)	+379 (+5.3pt)	+290%	-	500 (6.9%)	+9
当期純利益 (当期純利益率)	80 (1.1%)	136 (1.9%)	+56 (+0.8pt)	+70%	-	△40~0 (-)	+136~ +176
円/US\$	83円	100円	17円 (円安)				
円/Euro	107円	134円	27円 (円安)				
売上高への影響額	-	+955億円					
営業利益への影響額	-	+259億円					

(※) 「為替」「情報通信事業譲渡」「非事業ドメイン子会社整理」等の影響を除いた前期比

2

- こちらは、2014年3月期連結実績です。
- まず、売上高は前期比4%減の7,133億円となりました。しかし前期に情報通信事業を譲渡しており、これに為替影響などの特殊な要因を除いた実質ベースでは、約1%の増収でした。営業利益は前期比倍増の734億円、経常利益は4倍の509億円、当期純利益も4期ぶりに100億円を上回る136億円という結果となり、利益を中心に大幅に改善することができました。
- 医療事業が好調であったほか、構造改革等の成果が大きく出た結果です。特に、有利子負債の圧縮を進めたことで、金融費用の減少が進んだことなどが、経常利益の改善に寄与しています。
- また、前回予想値との比較では、当期純利益が大幅に上振れる結果となりました。これは主に、法人税が約120億円、見通しに比べ減少したことが要因です。2014年3月期の実績および翌期の見通しを精査した結果、繰延税金資産の計上額を見直したことなどで、税金費用が減少しました。

## 2014年3月期実績 ②セグメント別概況

- ◆ 医療は売上高・営業利益共に年間・四半期ベースで過去最高を更新するなど好調に推移
- ◆ 映像は営業損失が大幅改善

(単位：億円)		通期実績				4Q実績 (1-3月期)			
		2013/3	2014/3	増減額	前期比	2013/3	2014/3	増減額	前年同期比
医療	売上高	3,947	4,923	+976	+25%	1,245	1,408	+163	+13%
	営業利益	871	1,127	+257	+30%	306	341	+35	+11%
科学 (※1)	売上高	855	985	+130	+15%	280	309	+29	+10%
	営業利益	35	49	+14	+40%	23	29	+5	+22%
映像	売上高	1,076	961	△115	△11%	207	211	+4	+2%
	営業利益	△231	△92	+139	-	△143	△48	+95	-
その他	売上高	417	264	△154	△37%	94	68	△26	△28%
	営業利益	△49	△54	△5	-	△16	△10	+6	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△293	△297	△4	-	△66	△77	△11	-
連結合計 (※2)	売上高	7,439	7,133	△306	△4%	1,826	1,996	+170	+9%
	営業利益	351	734	+384	+109%	105	235	+131	+125%

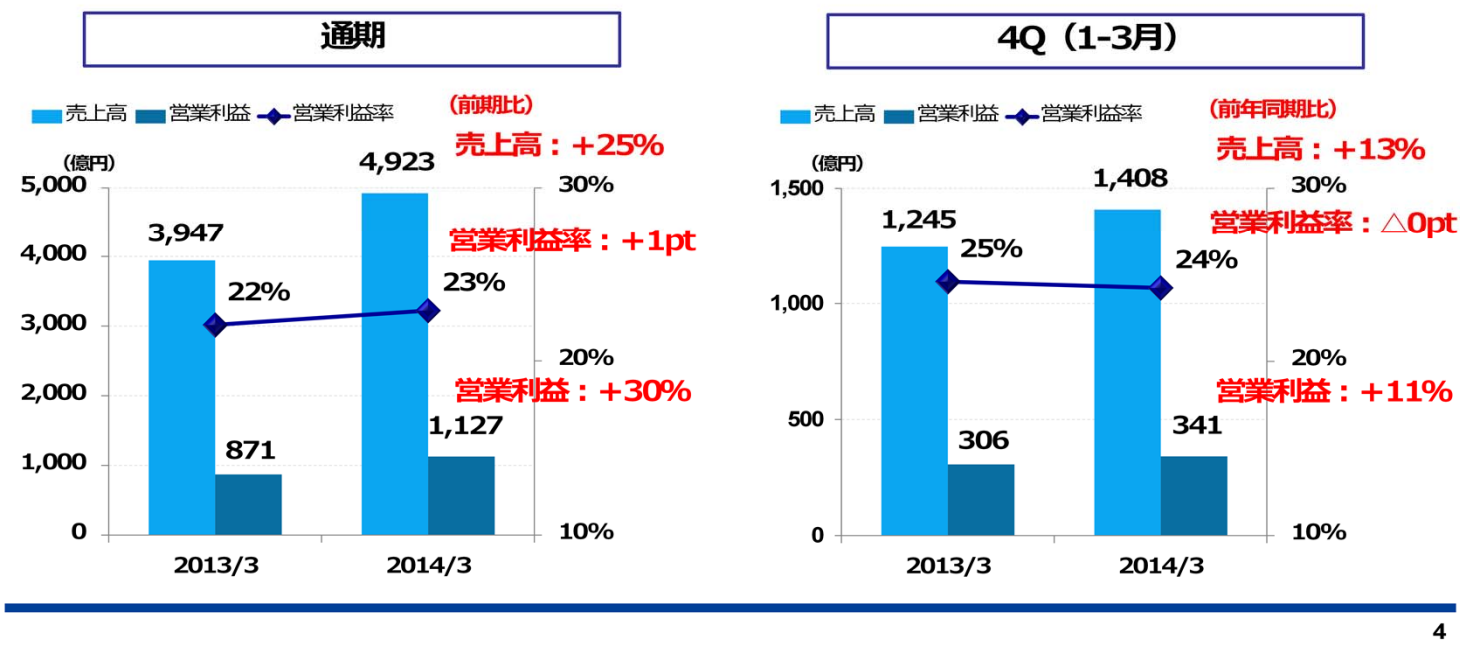
(※1) 2014年4月より、「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更しております。

(※2) 2013年3月期の合計は、譲渡した情報通信事業の数値を含んでいます。

- セグメント別の業績です。
- こちらの通り、医療事業の大幅な増益および、映像事業の損益改善により、全社の営業利益が押し上げられています。
- それでは、3事業について、もう少し詳しくご説明します。

## 2014年3月期実績 ③医療事業

◆ 新製品効果や円安等を追い風に、売上・利益共に年間・四半期ベースで過去最高を更新

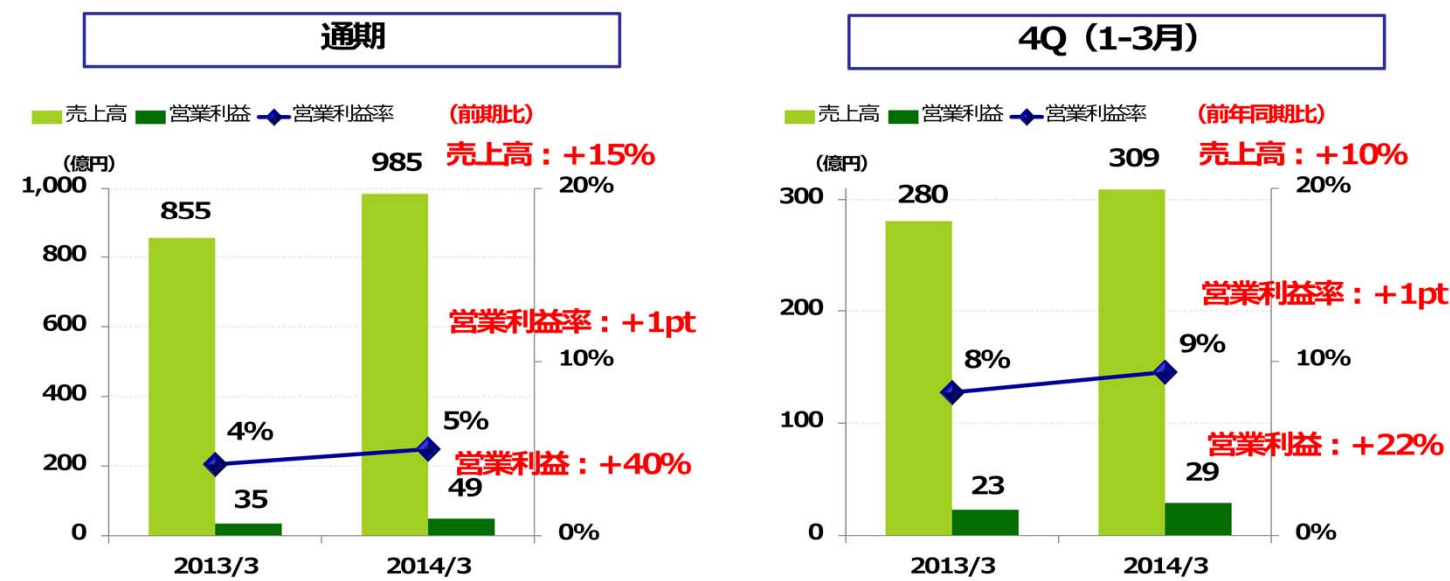


- まず、医療事業です。
- 通期の売上高は、前期比25%増の4,923億円、営業利益は30%増の1,127億円と、いずれも過去最高を更新しました。消化器内視鏡の新製品効果や為替の円安を追い風に大変好調な結果となりました。
- 主力の消化器内視鏡分野では、特に国内でルセラ・エリートが期初から堅調に販売を伸ばしたことに加えて、米国でも引き続きエクセラ・スリーの販売が好調に推移したことが寄与しています。
- 外科分野では、国内外で外科手術用内視鏡のヴィセラ・エリートが引き続き売上拡大に寄与しました。日米欧で投入した3D内視鏡システムの販売も好調に推移したほか、国内で下期より投入した外科エネルギーデバイス・サンダービートの好調な滑り出しも、成長拡大に寄与しています。
- なお、1-3月期ですが、中国の減速影響等がございましたが、日本がドライバーとなり大幅増収、増益、こちらも過去最高という実績でした。

## 2014年3月期実績 ④科学事業 (※)

(※) 「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更

### ◆ 国内で活発化し始めた予算執行により、増収・増益



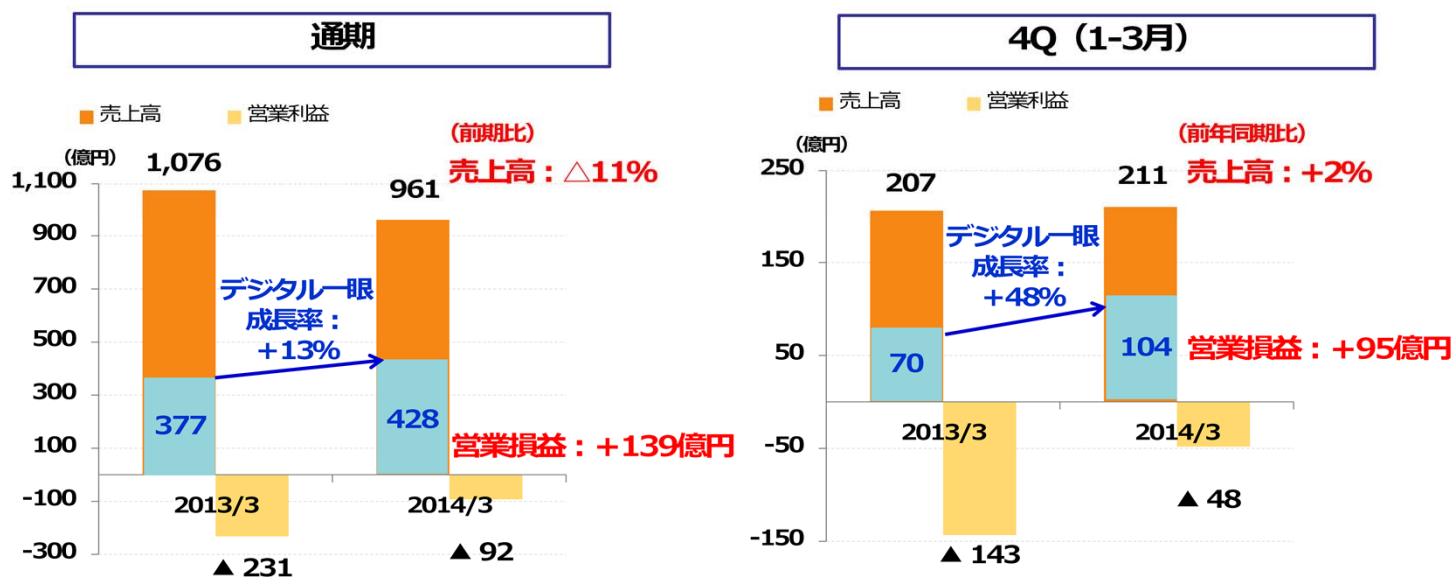
5

- 次に、この4月より体制を新たにした科学事業です。
- 売上高は、前期比15%増の985億円、営業利益は40%増の49億となりました。
- 海外で政府予算削減の影響など依然として厳しい状況が続いていますが、年度後半から、国内で活発化し始めた研究市場や病院市場の予算執行の動き、自動車市場等の活性化を確実に売上に結び付けることができました。また、昨年導入したレーザー顕微鏡等の新製品の販売も好調となったことが寄与しています。



## 2014年3月期実績 ⑤映像事業- (1)

### ◆ デジタル一眼（ミラーレス）へのシフト加速により、営業損益は大幅に改善



- 映像事業です。
- 前期に続き、営業損失を計上する結果となりました。
- しかしながら、前期との比較では、当社が進めてきたデジタル一眼、ミラーレスへのシフト加速が着実に進んでおり、その結果、営業損益は改善傾向にあります。
- デジタル一眼の売上高は、前期比13%増の428億円となり、コンパクトカメラの売上高、408億円を初めて上回る結果となりました。
- 第4四半期、1 - 3月期では、その傾向はより顕著となっており、デジタル一眼の売上高は、前年同期比48%増の104億円でした。これにより、映像事業全体として、第4四半期は増収に転換し、明らかに製品ポートフォリオの転換による事業構造の変化が進んでいます。

## 2014年3月期実績 ⑤映像事業- (2)

◆ 計画比：デジタル一眼（ミラーレス）の売上減少により、計画は未達

### 4Q（1-3月期）の計画比・差異

[4Q:1-3月] (億円)	2014/3 (3Q時計画)	2014/3 (実績)	差異 (計画比)	
売上高	290	211	△79	
デジタル一眼	178	104	△74	…売上未達
コンパクトカメラ	68	76	+8	
その他	44	32	△12	
売上総利益	125	85	△40	…粗利減少
販管費	131	133	+2	
営業損益	△6	△48	△42	…営業損益未達

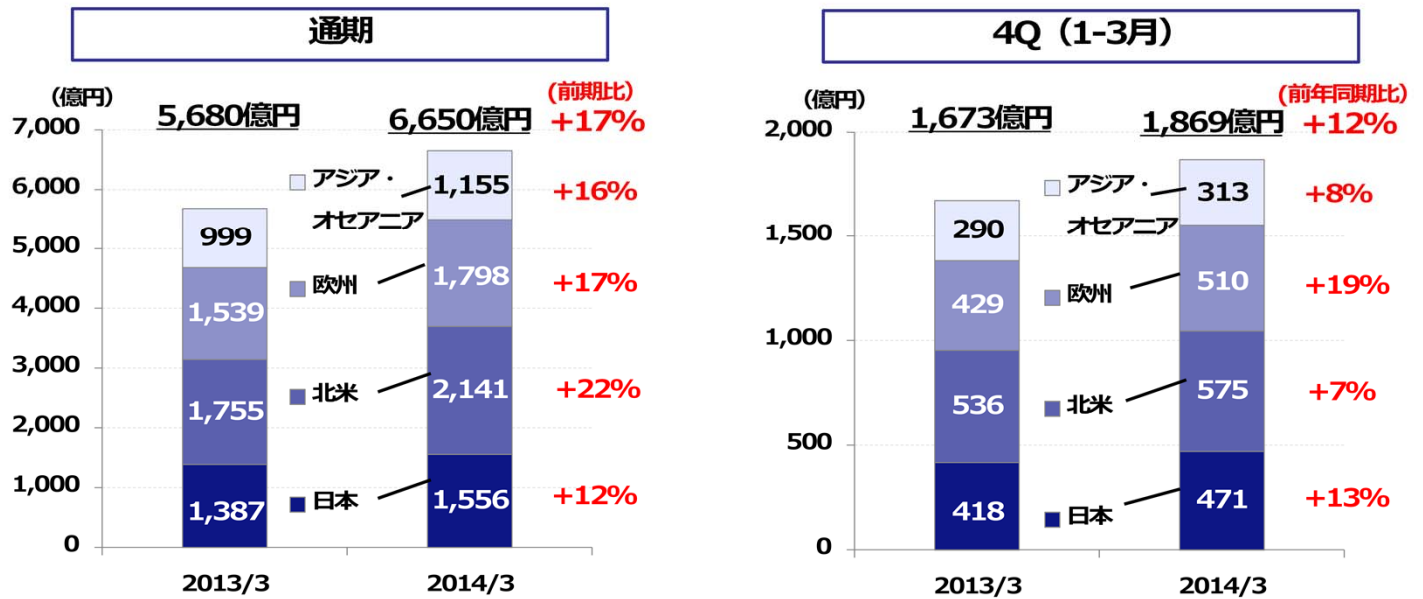
7

- 一方、前期との比較では、営業損益は改善したものの、従来計画に対しては、見通しを下回るという結果でした。
- この第4四半期に主力製品と位置付けたOM-DシリーズのE-M10を中心に、デジタル一眼の売上を大きく拡大させるという計画でした。しかし、E-M10の生産量を予定通り確保することができず出荷が遅れたこと、また、E-M1の好調な状況も一巡し、売上が計画未達となり、粗利が減少したことが大きく影響しました。
- 販管費は戦略的に投下したこともあり、結果として第4四半期で48億円の営業損失となりました。
- 現在は生産の問題も解決し、E-M10のバックオーダー解消に向けて今期のビジネスをスタートしています。この戦略製品を安定的な軌道に乗せ、OM-Dシリーズの中価格から高価格帯のラインナップ化により、早期の収益改善、巻き返しを図っていく予定です。

## 2014年3月期実績 ⑥地域別売上高

※グラフは主要3事業（医療、科学、映像）の数値合計

### ◆ 好調な医療事業が牽引し、全地域で増収



8

- 地域別の売上高はこちらの通りです。
- 円安の効果に加え、好調な医療事業が牽引し、全地域で増収という結果でした。
- 特に、国内市場は、医療事業の新製品効果に加え、消費税増税前の動きや、研究機関等、公的機関の予算執行の動きも活発化したことから、2桁増収という結果でした。



## 貸借対照表 (2014年3月末)

### ◆ 自己資本比率が32.1%まで回復、有利子負債を約1,450億円圧縮

(単位：億円)	2013年 3月末	2014年 3月末	増減額		2013年 3月末	2014年 3月末	増減額
流動資産 (デジタルカメラ在庫)	5,410 (236)	5,765 (217)	+355 (△19)	流動負債	3,169	2,763	△406
有形固定資産	1,298	1,354	+56	固定負債 (内：社債・長期借入金)	4,915 (4,229)	4,199 (3,468)	△716 (△761)
無形固定資産	1,746	1,736	△10	純資産	1,519	3,313	+1,794
投資その他資産	1,148	1,420	+272	(自己資本比率)	(15.5%)	(32.1%)	(+16.6pt)
資産合計	9,602	10,275	+672	負債純資産合計	9,602	10,275	+672
				有利子負債	4,158億円 (2013年3月末比 △1,446億円)		
				純有利子負債	1,637億円 (2013年3月末比 △1,671億円)		

9

- バランスシートの状況です。
- 自己資本比率が、前年3月末比、16.6ポイント改善し、目標としていた30%を超え、32.1%となりました。
- 昨年7月の増資に加え、業績が好調に推移し当期純利益を確保したこと、また、有利子負債をこの1年間で約1,450億円圧縮したことが大きく寄与しています。
- 尚、デジタルカメラの在庫金額は、前年3月末と同水準となっておりますが、これは、製品ライフサイクルの長いデジタル一眼へ在庫の中身が変化していることが背景にございます。コンパクトカメラの在庫は着実に圧縮しており、台数ベースでは約20万台レベル、前年3月末比9割減となっております。

## キャッシュフローの状況 (2013年4月～2014年3月)

(単位：億円)	2013年3月期	2014年3月期	増減
売上高	7,439	7,133	△306
営業利益	351	734	+384
(%)	4.7%	10.3%	+5.6pt
営業CF	252	724	+475
投資CF	335	△203	△541
財務CF	△424	△397	+27
キャッシュフロー	163	124	△39
フリーキャッシュフロー	587	521	△66
現金及び現金同等物期末残高	2,258	2,513	+256
減価償却費	339	369	+30
のれん償却額	97	95	△2
設備投資額	280	326	+46

10

- キャッシュフローの状況です。
- 営業キャッシュフローは、好調な事業から創出される利益に加え、売上債権や棚卸資産等、資産の圧縮を進めたことから、前期比、約3倍の724億円を確保することが出来ました。
- 投資キャッシュフローは、設備投資により、203億円のマイナスでした。
- 以上により、フリーキャッシュフローは、521億円のプラスとなりました。

---

# 2015年3月期 通期見通し

- 続いて、2015年3月期の見通しについてご説明いたします。

## 2015年3月期 連結業績見通し

- ◆ 医療事業を中心に、主力事業の実質的な伸びにより牽引
- ◆ 営業外収支が更に改善し、経常利益以下の大きな改善に寄与する見通し

(単位：億円)	2014/3 (実績)	2015/3 (見通し)	増減額	前期比
売上高	7,133	7,600	+467	+7%
営業利益 (営業利益率)	734 (10.3%)	880 (11.6%)	+146 (+1.3pt)	+20%
営業外収支	△225	△180	+45	-
経常利益 (経常利益率)	509 (7.1%)	700 (9.2%)	+191 (+2.1pt)	+38%
当期純利益 (当期純利益率)	136 (1.9%)	450 (5.9%)	+314 (+4.0pt)	+230%
円/US\$	100円	100円	0円 (----)	
円/Euro	134円	135円	1円 (円安)	
売上高への影響額	-	▲7億円		
営業利益への影響額	-	▲4億円		

12

- こちらは、2015年3月期の見通しです。
- 売上高は、前期比7%増の7,600億円、営業利益は20%増の880億円、経常利益は38%増の700億円、当期純利益は3.3倍の450億円となる見通しです。
- 為替レートを、1ドル100円、1ユーロ135円としております。円安等による影響は、ほとんどなく、主力3事業を中心とした、事業の増収、増益効果が、連結業績を押し上げています。
- また、営業外収支が金融費用等の減少を主因に更に改善する見込みとなっており、経常利益以下の利益改善に大きく寄与しています。

## 2015年3月期 セグメント別業績見通し

◆ ほぼ、全分野で増益傾向

◆ その他事業は、バイオロジクス事業からの撤退により54億円改善の見込み

(単位：億円)		2014/3 (実績)	2015/3 (見通し)	増減額	前期比
医療	売上高	4,923	5,400	+477	+10%
	営業利益	1,127	1,150	+23	+2%
科学 (※)	売上高	985	1,040	+55	+6%
	営業利益	49	45	△4	△8%
映像	売上高	961	970	+9	+1%
	営業利益	△ 92	△ 35	+57	-
その他	売上高	264	190	△74	△28%
	営業利益	△ 54	0	+54	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	△ 297	△ 280	+17	-
連結合計	売上高	7,133	7,600	+467	+7%
	営業利益	734	880	+146	+20%

(※) 2014年4月より、「ライフ・産業」のセグメント名称を「科学」に変更しております。

13

- セグメント別の見通しはこちらの通りです。
- 医療事業は、戦略投資180億円をこなしながら、今期も過去最高の売上高、営業利益を確保できる見通しです。
- 科学事業は、増収の見込みですが、戦略変更に伴う、構造改革費用等により、前年並みの利益となる見込みです。
- 映像事業は、今期も営業損失の見通しとなっておりますが、これは主に、B to Bビジネスの拡大によるものであり、既存のカメラ事業は、ほぼ収支均衡の見通しです。
- 最後に、その他事業ですが、バイオロジクス事業からの撤退により、54億円改善し、ブレイクイーブンの見通しです。
- 以上



**OLYMPUS**

---

# 參考資料

## 【参考資料】 2015年3月期 連結業績見通し（上期／下期）

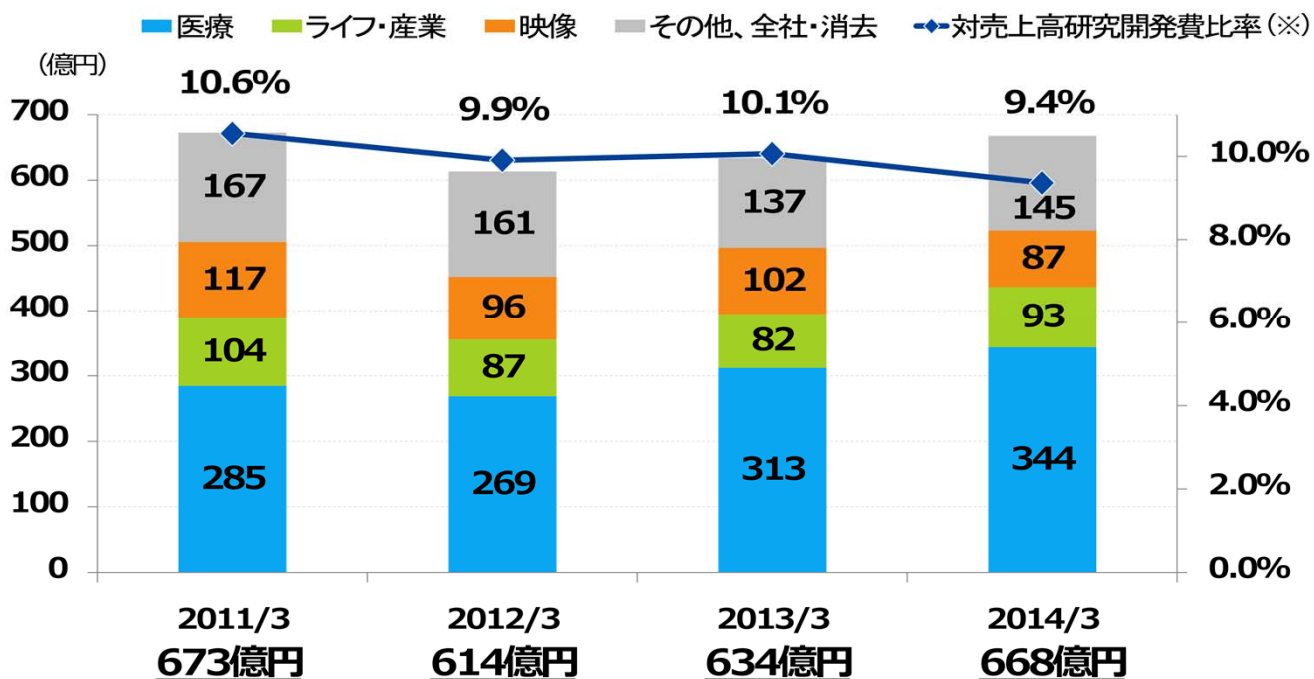
(単位：億円)	2014年3月期 (実績)		2015年3月期 (見通し)		前年同期比 (%)	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	3,338	3,795	3,600	4,000	+8%	+5%
営業利益 (営業利益率)	285 (8.5%)	449 (11.8%)	350 (9.7%)	530 (13.2%)	+23%	+18%
経常利益 (経常利益率)	170 (5.1%)	340 (8.9%)	250 (6.9%)	450 (11.3%)	+48%	+33%
当期純利益 (当期純利益率)	△ 79 (-)	216 (5.7%)	130 (3.6%)	320 (8.0%)	-	+48%

## 【参考資料】 2015年3月期 セグメント別業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)		2014年3月期（実績）		2015年3月期（見通し）		前年同期比（%）	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
医療	売上高	2,298	2,625	2,600	2,800	+13%	+7%
	営業利益	492	635	520	630	+6%	△1%
科学	売上高	440	545	480	560	+9%	+3%
	営業利益	5	44	0	45	-	+2%
映像	売上高	470	491	440	530	△6%	+8%
	営業利益	△27	△65	△30	△5	-	-
その他	売上高	130	134	80	110	△39%	△18%
	営業利益	△28	△25	0	0	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-
	営業利益	△157	△140	△140	△140	-	-
連結合計	売上高	3,338	3,795	3,600	4,000	+8%	+5%
	営業利益	285	449	350	530	+23%	+18%

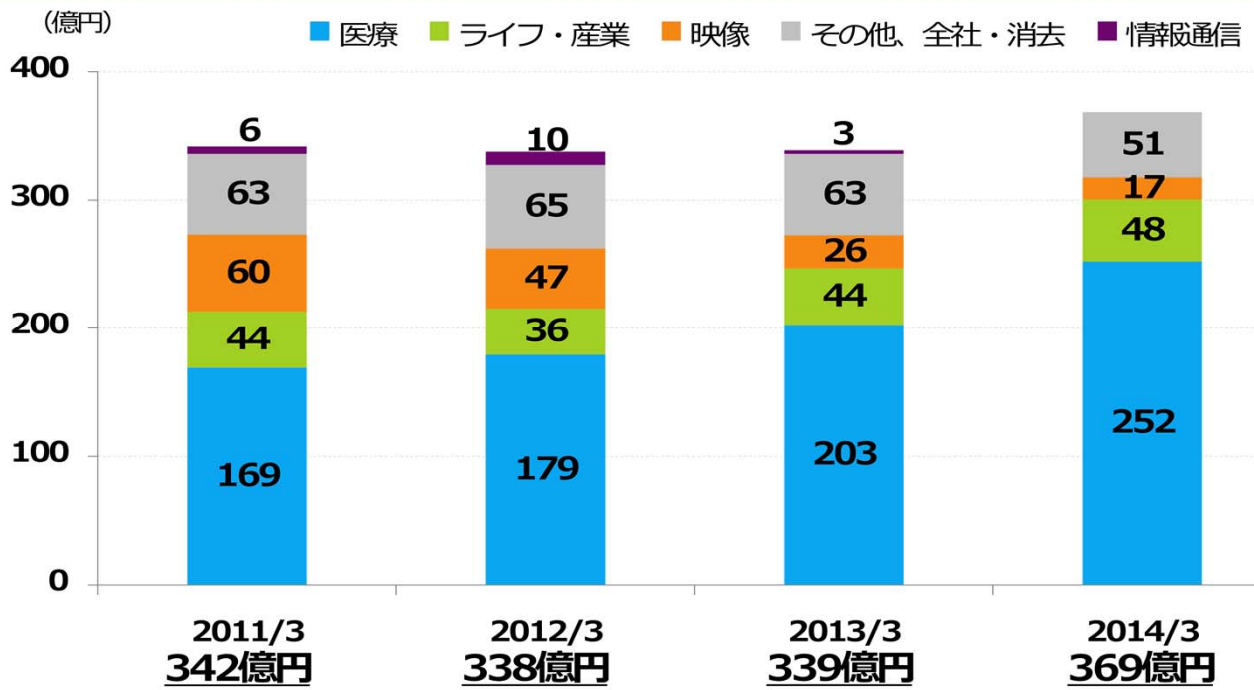
# 【参考資料】 研究開発費

(※) 情報通信事業の売上高を除いた数値

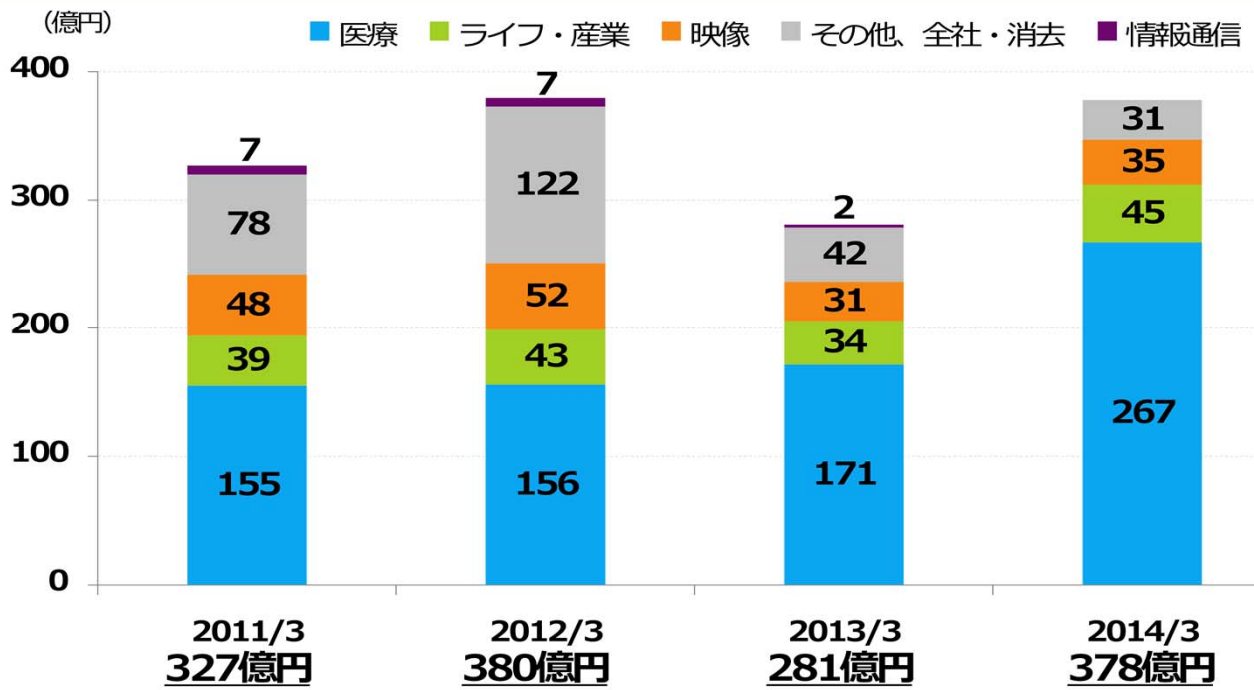




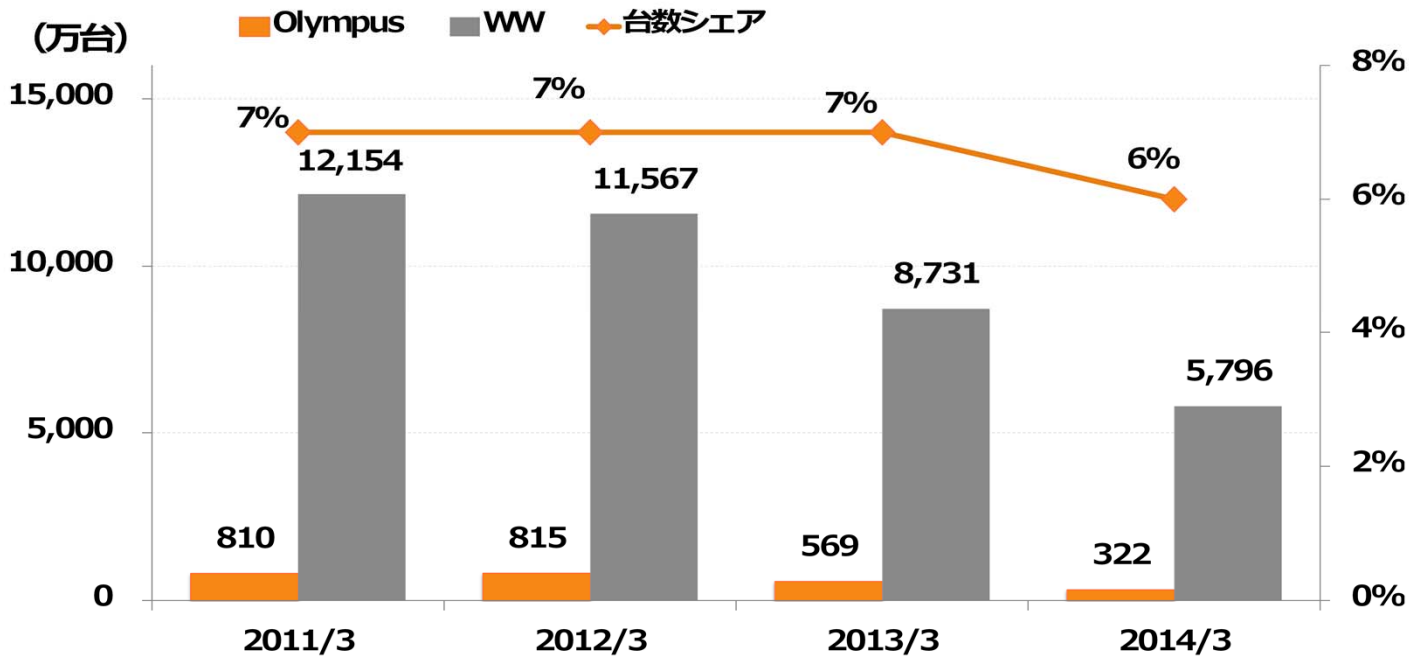
## 【参考資料】減価償却費



## 【参考資料】 設備投資



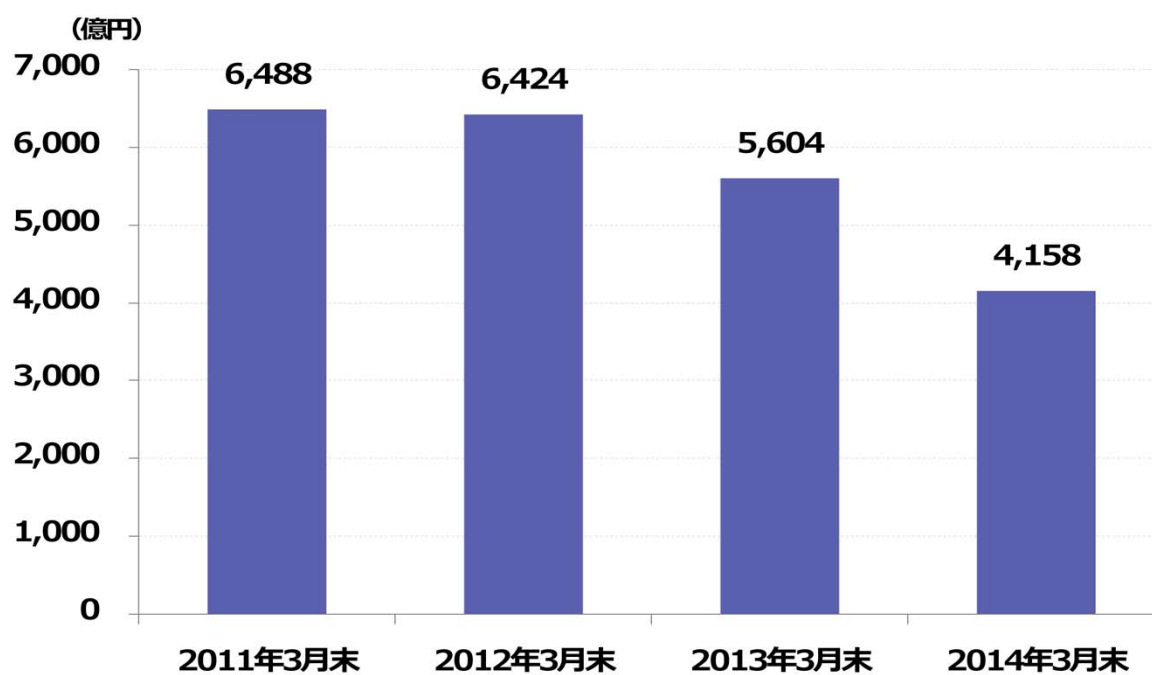
## 【参考資料】 デジタルカメラ



## 【参考資料】 中期経営計画 セグメント別業績目標

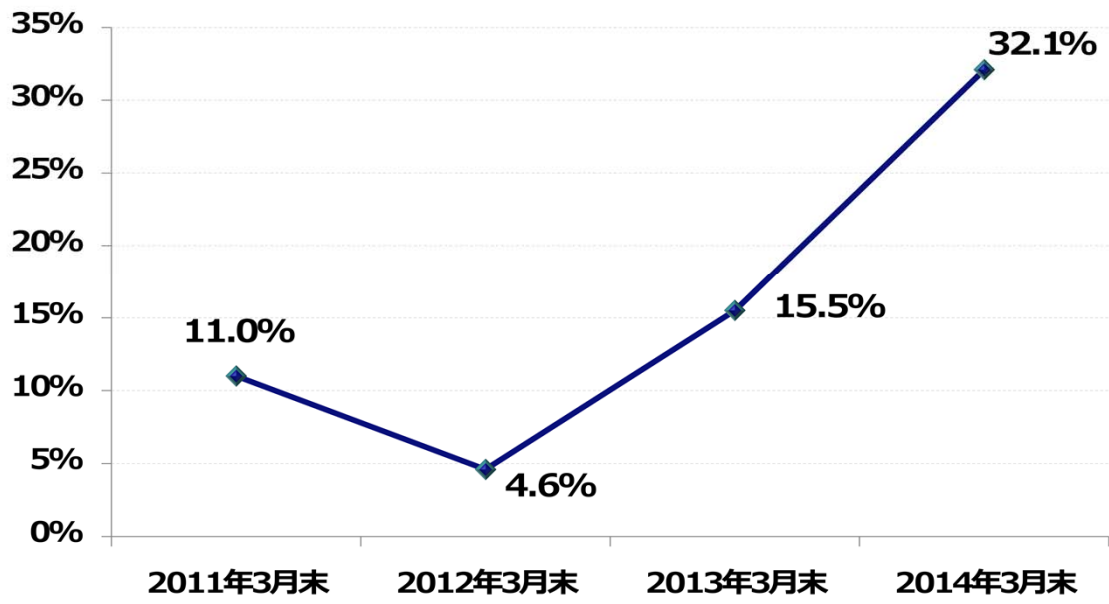
		2015年3月期		2017年3月期
		従来目標	今回予測値	(目標値変更無し)
売上高	医療	5,200億円	→ 5,400億円	6,500億円
	科学	1,150億円	1,040億円	1,350億円
	映像	1,000億円	970億円	1,000億円
	その他	250億円	190億円	350億円
	合計	7,600億円	7,600億円	9,200億円
営業利益	医療	1,110億円	→ 1,150億円	1,500億円
	科学	90億円	45億円	150億円
	映像	70億円	▲35億円	90億円
	その他	▲10億円	0億円	10億円
	全社・消去	▲330億円	▲280億円	▲320億円
	合計	930億円	880億円	1,430億円

## 【参考資料】 有利子負債





**【参考資料】 自己資本比率**



# OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。